

平成 22 年 4 月 29 日現在

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2007～2010

課題番号：19720124

研究課題名（和文）無線インターネットを利用したネイティブ教授者参加型チームティーチング授業の研究

研究課題名（英文）A Study of Team-teaching a Participatory Japanese Language Class with Native Japanese Teacher via the Internet

研究代表者

大塚 薫 (OTSUKA KAORU)

高知大学・教育研究部人文社会科学系・准教授

研究者番号：30372733

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・日本語教育

キーワード：双方向型授業、チームティーチング、無線インターネット、日本語ネイティブ教授者、参加型授業、遠隔教育、遠隔授業、対面授業

1. 研究計画の概要

本研究は、日本語学習者に対する教育において、授業の効率化を目的に多様な遠隔授業を試み、その長所、短所及び特性の把握、分析を通して教育現場での直接的な応用を研究するものである。具体的な目的は以下の3項目を達成することである。

- (1) 教授者が簡単に費用をかけずに遠隔授業ができる多様な授業方法を実践、分析し情報を提供することでインターネットに専門的な知識が乏しい教授者及び学習者であっても多様な授業に応用することができる授業の案を樹立する。
- (2) ネイティブ教授者と非ネイティブ教授者とのインターネット画像授業を利用したチームティーチング方式による授業実践を通じて日本語学習者に対するネイティブ教授者による生きた日本語教育の方法を構築する。
- (3) 多様な実践授業を通じて媒介語を使用した遠隔チームティーチングの特徴を分析、研究する。

2. 研究の進捗状況

近年のインターネット環境の発達に伴いIT 技術を応用した授業形態を日本語教育において実践している。具体的には、授業方式の効率化のための研究の一環として以下の

- (1)～(5)の形態の授業が考えられる。
- (1)韓国内の教授者による対面授業及び日本国内の教授者による画像チャット機能及びSNS を利用した遠隔画像音声授業を通じたチームティーチング講義
- (2)韓国内の教授者による対面授業時に日本国内の教授者が無線LAN機能のノート・パソコンを利用してウェブカメラを通して授業に参加する対面授業参加型チームティーチング講義
- (3)画像音声チャット機能を利用した韓国人教授者及び日本人ネイティブ教授者によるSNS 上のチームティーチング講義
- (4)日本国内の教授者によるウェブカメラを利用した教室参加型授業
- (5)SNS 上で行う自作ビデオ講義を通じた遠隔授業

(1)～(5)の授業形態の中で特に(2)のインターネットを通じたネイティブ教授者参加型のチームティーチング授業方式は、新しい授業形態であり、ネイティブ教授者の確保が困難な遠隔地においては、有用な方式であると考えられる。そこで、(1)～(5)の授業方式の長所、短所及び特性を分析するとともに、遠隔チームティーチング方式における効率的な指導方法について実践的な授業に基づき研究した結果、以下のような特徴が見られた。

①ネイティブ教授者が学習者全体に対して一斉に指導を行う形式よりも非ネイティブ教授者が主導して学習者との仲介を行い、授業を進行していく形式の方が授業の進行の面で効果的であった。

②遠隔授業内で、学習者がネイティブ教授者との対話を試みる形式を初級レベルから授業内に取り入れることにより、授業の活性化が図れた。

③チームティーグ授業におけるネイティブ教授者の役割としては、「会話」「発音・アクセント」「日本文化紹介」での必要性が高い。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)「2. 研究の進捗状況」において(1)～(5)の授業形態を挙げたが、それぞれの授業形態において実践的な授業を行い特徴を把握するとともに、新しい形態である(2)のインターネットを通じたネイティブ教授者参加型チームティーチング方式での授業においても授業方法の構築が行われつつあるため。

4. 今後の研究の推進方策

本年度は、本研究の最終年度であるため、引き続き非ネイティブ教授者及びネイティブ教授者によるチームティーチング授業を実施するとともに、今まで実践してきた各授業別データの比較分析を行う。

前者は、研究に必要な授業確保及び実践授業の準備を行った後に、引き続き「対面授業+教室参加型遠隔画像音声授業(チームティーチング)」の授業形態で対面教育及び遠隔教育における授業を日本語学習者を対象として進め、遠隔授業の特徴を分析、研究する。

後者は、様々な形態で行われた各授業別のデータの比較分析を実施するとともに、遠隔教育における効果的な作文教材コンテンツに関しても報告書にまとめる。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

- ① 大塚薫、画像参加型日本語講読チーム・ティーチング授業における日本語母語話者教授者の役割、韓国日本語学会第21回国際学術発表会論文集、pp.127-131、2010、無
- ② 大塚薫・李暉洙・金才鉉、上級日本語学習者に対する遠隔日本語作文授業方法の構築—インターネットテレビ会議システムを利用した論理的叙述法教育を通して—、韓国での日本学、日本での韓国学研究の現況及び展望、pp.150-153、2009、無
- ③ 大塚薫・李暉洙・金才鉉、遠隔チーム・

ティーチング授業実践—高等教育における日本語母語話者教授者参加型画像授業—、日語教育、第45輯、pp.83-97、2008、有

- ④ 大塚薫・金才鉉、日本語母語話者教授者参加型遠隔チーム・ティーチング授業の試み、メディア教育研究、Vol.5 No.1、pp.115-121、2008、有

[学会発表] (計1件)

- ① 大塚薫、高等教育における遠隔チーム・ティーチング授業実践研究、2010世界日本語教育大会、2010年8月1日、台湾国立政治大学(台湾) <発表確定>

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]